

Q&A

人口減対策について



堀 譲 議員  
YUZURU HORII



子育て優先の予算を

**問** 国立社会保障・人口問題研究所の予測を上回る早さで、少子化が進んでいる。22年の出生数は80万人を切った。その要因は様々であるが、市はどの部分に注視して予算編成を行ったのか。

**答** 将来を担う子供たちの教育環境の整備や地域経済の活性化を基本に編成した。子育ての経済的支援や伴奏型相談支援など、妊娠前から子育てまでの総合的な取組みを具体化し、予算化した。

産み育てやすい環境づくりを

**問** 少子化の原因の一つには、「産みづらく育てにくい」環境にあると考える。市はその環境づくり、積極的に取組んでいることを評価している。どのような支援事業に取組み、今後の課題をどう認識しているのか。

**答** 産前産後を含め、子ども

の就学前までの支援を中心に事業を展開している。不妊治療の助成や出産子育て応援給付金事業、出産後の保健師や助産師による産後ケア事業などを実施している。子育て世帯への調査では、これらの事業への評価は得ているが、出生数の改善には至っていない。その要因として考えられる未婚率の上昇、晩婚化の進展、経済的な不安などが今後の課題である。

子育て世代の雇用の安定を

**問** 将来的な経済的不安が結婚の壁にもなっている。市内の雇用の創出と雇用の安定にも対策を講じるべきではないかと考えるが、市の対策はあるのか。

**答** 卒業生など若者を対象に、就職サポート相談会や合同就職説明会などを開催している。また、企業立地奨励事業の雇用奨励金や、創業支援事業における新規雇用補助などを実施している。さらに、ハローワーク龍野と共催で合同就職面接会や、定住移住を希望する求職者に対して、相談コーナーを併設し、U-Jターン促進に繋げたいと考えている。

Q&A

「殺処分0」を目指して人と動物の共生/誰も取り残さない「デジタル社会」の実現



畑山 剛一 議員  
TAKAKAZU HATAYAMA



「殺処分0」を目指して人と動物の共生を!

**問** 政府も平成26年に「殺処分0」を目指しているが、今だ「殺処分0」には程遠い。状況改善のためマイクロチップの装着費用を助成してはどうか。

**答** 費用の助成は現時点で検討していないが、普及啓発に取組む。

**問** 猫の不妊去勢助成事業に取組んではどうか。

**答** 猫の殺処分減に大変有効な手段であり、地域の猫の現況を調査したうえで事業実施を検討する。

**問** ボランティア団体と協力して啓発活動や譲渡会に取組んではどうか。

**答** 今後は、ボランティア団体とも連携し「殺処分0」を目標にした取組みに尽力する。



僕は、  
どうなるの

提供：ピースワンコ・ジャパン

誰も取り残さない「デジタル社会」の実現を!

**問** マイナンバー交付枚数を見ても、高齢になるほどデジタル社会についていけないように思う。市では高齢者のスマホ教室等で対策を行っているが、そこへ足を運ばない、運びたくない方への対策を考えないと本当の「取り残さない」にならないと思うがどうか。

**答** スマホ体験講座やスマホの使い方を教えられる人材を養成する講座を開催している。引き続き県や民間業者と協働し持続的かつ幅広く事業を展開していく。

**問** 母子手帳アプリと、マイナンバーとの情報連携に取組むべきではないか。

**答** 母子手帳アプリの導入について検討しており、母子手帳の電子化等、国の動向を注視しながら進めていく。



その他の質問事項

●こども園にICTを導入してスマホアプリで連絡、効率化について